



春 江 だ よ り

10 月 号

令和 6 年 9 月 30 日 (月)

読書の秋

校 長 小 林 麻 子

お彼岸が過ぎ、やっと秋らしい心地よい風を感じる季節となりました。この季節は暑さも和らぎ物事に集中して取り組むことに適した時期で、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋などと言われています。

その中の「読書の秋」という言葉の起源を追うと、古代中国の漢詩にたどり着きます。中国・唐代の文人である韓愈が残した詩「符読書城南詩」の中に「燈火（とうか）親しむべし」という一節があります。詩の意味は、「秋になると長雨が上がって空が晴れ渡り、涼しさが気持ちよく感じられる。そんな秋の夜は、夜の灯に親しんで、本を読むのが心地よい」という内容です。この詩の一節が、涼しい秋の夜が読書に最適な季節であるという考えを広めるきっかけとなったようです。

読書活動は読解力や知識が身に付くといった学習面だけでなく論理的な思考力や集中力など、子供がこれから生きていくために必要な力も身に付けられる効果があります。また、読書活動は子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生を深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものです。

先週、文化庁が公表した「国語に関する世論調査」では、月に1度も本を読まない人が6割超に上がることが判明しました。スマートフォンやSNSの普及が原因とみられます。

本離れ、活字離れが指摘されている中、本校では読書活動の充実を図っています。朝の読書、学校応援団のご協力による読み聞かせ、10月2日からの読書週間では、教員による読み聞かせ「ブックバイキング」が予定されています。また、本校では、各階の廊下に本棚と座って読めるスペースがあり、手軽に本を手にとることができる環境となっています。

江戸川区では、読書科があり、「主体的に読む子供 問い続ける子供」を目指しています。

先日、区の施設である魔法の文学館に見学に行きました。魔法の宅急便の作者で知られる児童文学作家の角野栄子さんの作品の世界観を表現した施設です。中には、約1万冊の角野さん選出の児童書や絵本が並び、自分の好きな場所でお気に入りの本をゆっくりと読むことができる環境になっています。

子供たちには身近な環境に本を手にとることができる、ちょっとした場所があります。そんな場所を見つけて上手に活用してほしいと思います。私が子供の頃に読んだお気に入りの絵本は何度も手にしたためか、背表紙がボロボロになっていますが、好きなページ、好きな登場人物の姿は、今でもよく覚えています。ご家庭でも読書の機会を積極的に設け、本から想像する楽しさ、知る楽しさを味わい、豊かな心の育成につなげてほしいと思います。